

出雲市観光基本計画を策定

計画期間は
10年間
平成21年度
～
平成30年度

市では、「21世紀出雲神話観光大国の創造」を基本方針に「21世紀出雲神話観光大国の建設促進条例」および「21世紀出雲「神在月」文化振興条例」を制定し、市民・観光事業者・行政などと協働し、多様な観光施策を展開しています。

合併して4年が経過しようとする中、それらを一步進めるため「21世紀出雲神話観光大国」の実現に向けて、今後どのように出雲市の観光を進めていくかという指針として「出雲市観光基本計画」を策定しましたので、その概要についてお知らせします。

「出雲市観光戦略会議」で
新たな観光振興策を
検討・協議

基本計画の策定にあたっては、市内外の専門家や観光の第一線で活躍されている方をメンバーとする「出雲市観光戦略会議（小口孝司会長・26人）」を昨年7月に立ち上げました。そこで、出雲大社門前町まちなかある空間の整備など観光拠点の機能を高めるとともに、市全域にわたる観光振興を図り、観光入込客数とその滞在時間の増加や宿泊率の向上などについて検討を重ねてきました。また、パブリックコメントを実施し、市民の皆さんからもさまざまな意見をお寄せいただきました。

そして、今年1月、出雲市観光戦略会議の正副会長が、取りまとめられた基本計画案を市長に報告しました。この報告を受け、市では、「出

雲市観光基本計画」を策定し、「21世紀出雲神話観光大国」の実現に向けて、各事業に取り組むこととしています。

出雲市観光交流の
特徴と課題

- (1) 出雲市における観光客の特徴
- 観光入込客数は、近年増加傾向にあり、平成19年には850万人を突破している一方、日帰り客が圧倒的に多く、全体に対する宿泊客の割合は、1割に満たない状況。
 - 関東、近畿、広島からの来訪客が多く、市内での立寄り先は平均2か所、出雲大社+島根ワイナリーが6割強を占めている。
 - 外国人宿泊観光客数は、島根県全体の1割に満たない状況。

(2) 4つの課題

- 滞在力**
出雲大社+αとしてのブランドイメージの確立と特色あるイベントや食事や街中散策を楽しめる滞在空間の充実。
- 周遊力**
各地域の観光資源の連携と魅力向上、道路や標識などの基盤整備をはじめ地域内交通の充実や情報提供の充実。
- 情報発信力**
伝えたい対象に応じた確かな情報伝達の方法手段の選択と適宜的確な情報発信。
- 事業推進力**
旅館等受け入れ団体、市民等のもてなしの努力と観光施策効果の把握と情報共有。

観光交流の目標・
目指すべき観光地像

『出雲』の全国的な知名度、豊かな歴史・文化資源、自然資源を最大限に生かすため、観光拠点の整備とネットワーク化により、国内外から多くの観光客が訪れる神話観光大国を創造し、「観光交流人口1000万人の実現」を目指しています。

なお、観光交流人口1000万人を一過性のものとし、ないためには、観光交流の質を高めていくことが必要です。一度訪問した観光客には再訪を促す観光地づくりが重要となります。そして、リピーターからさらに発展し、出雲の地をこよなく愛するサポーターを増やしていく必要があります。そのため、出雲のまちそのものの魅力を高めていくことや心のこもったおもてなしの向上など地域全体としての魅力を高めることが求められます。

出雲の地に、「ご縁」を求めて来訪し、「ご縁」に触れて感じていただき、「ご縁」を伝えて、「ご縁」ができて何度も繰り返し訪れていただくことを目指します。出雲の本物志向と豊かさを背景にご縁でつながり、広がっていく観光地を目指します。

◆観光交流のテーマ

『神話の夢舞台・出雲』
世界を結ぶご縁都市、
ご縁を大切に作る出雲
～神話と歴史・文化の地から本物の豊かさを提供～

◆4つの基本方針を設定

- 1 滞在力**
神話の舞台のご縁づくり
拠点性のある観光地づくり
- 2 周遊力**
出雲路をめぐるご縁づくり
テーマ性のある観光地づくり
- 3 情報発信力**
世界に発信するご縁づくり
出雲ブランドを発信する観光地づくり
- 4 事業推進力**
明日につなげるご縁づくり
おもてなしのある観光地づくり

◆10の施策

- 1 出雲大社を中心とする滞在拠点の整備
- 2 エリアごとの滞在拠点の整備
- 3 滞在促進メニューの開発
- 4 ストーリー性のある周遊ルートの創出
- 5 交通ネットワークの充実
- 6 広域観光の推進
- 7 出雲ブランドの確立
- 8 情報編集・発信の充実
- 9 事業評価・検証・推進体制の確立
- 10 ホスピタリティ(おもてなしの心)の向上

●おたすね／観光政策推進本部(☎21-6619)